

第4次総合計画基本構想における将来像の検討について
(第6回作業部会を踏まえて)

第3次総合計画（平成18年度～）の将来像の概要

- ・ 都市文化が育ち、住みたいまち、住み続けたいまちとして成熟してきた



【主な課題】

- ・ 少子高齢化の波は、他市と比べると緩やかとはいえ確実に押し寄せてきている
- ・ 地球規模にわたる環境問題の深刻化
- ・ まちの再生にも取り組まなければいけない



より住みやすく、より働きやすいまちとして次世代に引き継いでいくために

- ・ 安心や安全、環境に視点を置いたまちづくり
- ・ 地域文化を再生・活用し、市民の力を生かしながら地域産業の振興
- ・ 市民自治の理念に基づき、市民、事業者、行政による協働のまちづくり
- ・ 「非核平和都市宣言」「健康づくり都市宣言」の趣旨を踏まえたまちづくり



21世紀の吹田のまちを、さまざまな人が出会い交流し、そこに子どもたちの笑顔、若者たちの躍動感、働く人のエネルギー、高齢者や障がい者の生きがいなどがあふれ、感動あるまち、美しいまちとして実現させることをめざして、将来像を次のとおりとする

人が輝き、感動あふれる 美しい都市 すいた

第4次総合計画（平成30年度～）の将来像に盛り込む視点

【主な課題】

- ・ 少子高齢化の進展（2025年問題）
- ・ 産業・雇用構造の変化
- ・ 近年の再開発による人口増加（一方で、将来的には人口減少が予想される）
- ・ 公共施設等の社会基盤の老朽化による更新の集中



社会情勢の変化や課題に対応しながらまちづくりを進めることを前提に、第4次総合計画においては、以下の視点を踏まえた将来像とする

- ・ **安心安全**
※平成20年「安心安全の都市(まち)づくり宣言」
※危機管理の視点に加えて、平和、福祉、子育て、健康などの視点も含む
- ・ **住みやすい**
※環境、利便性などの視点も含む
- ・ **持続可能**

【参考】第6回作業部会（平成28年8月23日）における将来像の検討内容

1 将来像について

第1部会

- ・「住み続けたい」まちづくりが基本
- ・要素として「安心」は重要
「安心」＝「福祉」「医療」「危機管理」など
- ・「福祉・医療」にスポットを当てすぎない
若い世代向けの取組も必要
- ・地域ごとにブランド力を高めることが必要

第2部会

- ・誰もが健康で安心して暮らし続けたいまち
(防災・防犯だけでなくあらゆる面で)

第3部会

- ・全ての世代が健康で安心してくらしやすい都市
ー子育てしやすいまち、高齢者・障がい者も住みやすいまち、健康寿命の延伸、
安心・安全なまち

第4部会

- ・安心・安全
- ・福祉
- ・子育て・教育

第5部会

- ・持続可能な社会→「フューチャーデザイン」
- ・限りある自然環境の保全
- ・安心して安全に住み続けられるまち

第6部会

- ・「安心して住める町」を加えてもらいたい
- ・究極のベッドタウン化を目指す。住みやすい町ランキング1位獲得
- ・シティプライドの構築
- ・「子育てするなら吹田」の復活

2 将来像の示し方

第3部会

- ・街のセールスポイントを外部に発信

第4部会

- ・親しみやすい表現
- ・誰が見てもわかるもの
- ・手にとって読んでもらえるもの

第5部会

- (キャッチコピーについて)
- ・市の特徴を示すことができれば必要
 - ・施策体系が出そろった時点で考える

